

KOFU NEXT ACTION 2023実績書

令和5年度末における取組状況は次のとおりです。

NEXT ACTION 1

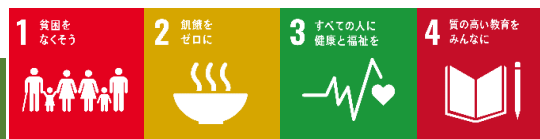
こども育むまち

施策の方向性

- 1-1 きめ細かな相談・支援の体制づくり
- 1-2 安心できる居場所づくり
- 1-3 新時代の特徴ある学びづくり
- 1-4 こうふ愛の醸成

みんなで子どもを応援し、子どもの夢やこうふ愛が育まれるまちづくりに取り組みます。

1-1 きめ細かな相談・支援の体制づくり



一人ひとりに寄り添ったきめ細かな相談・支援による子育て支援の強化と、様々な体験を通じた子育て応援を充実します。

■ 子ども・青少年総合相談センターの開設

子ども・青少年に係る相談支援体制を強化するため、子ども・子育て相談機能と青少年相談機能とを一体化した「子ども・青少年総合相談センター おひさま・あおぞら」を令和5年度より設置し、青年期までの切れ目のない相談・支援を行うことにより、ヤングケアラーなど悩みや不安を抱える子どもたちの成長を応援していきます。

- 取組
- 子ども・青少年総合相談センターの設置
 - ヤングケアラーの社会的理解の促進
 - ヤングケアラー支援庁内連携体制の強化
 - 配食支援モデル事業等によるヤングケアラー支援

実績・成果

- ・4月に「子ども・青少年総合相談センターおひさま・あおぞら」を開設した。
- ・青少年自身を支援する「あおぞら」と子どものために世帯全体を支援する「おひさま」との緊密な連携を軸とした相談・支援を実施した。
- ・相談員やヤングケアラー・コーディネーターが市内小中高等を訪問し、ヤングケアラー等の啓発活動を行う中で、学校との連携強化を図った。
- ・ヤングケアラー・コーディネーターが、民生委員・児童委員主催の勉強会等に講師として参加し、社会的理解の促進に努めた。
- ・円滑な庁内連携体制として「ヤングケアラー支援庁内連携会議」を設置し、年3回の会議を通じて共通認識の醸成を図った。
- ・支援の流れや関係機関等の役割を記載したヤングケアラー支援の手引書を発行し、関係機関等に配付するなど、連携・支援強化を図った。
- ・早期の実態把握とレスパイトケアを目的に「甲府市ヤングケアラー配食支援モデル事業」を実施し、当事者の負担軽減に努めた。
- ・「あおぞら」周知用携帯カードを市内小学校高学年と中高生に配付するなど、分かりやすく相談しやすい窓口の構築に努めた。（約1.8万枚）
- ・ヤングケアラーを含む少年相談件数は115件と、子ども・青少年総合相談センター開設前（旧青少年相談室）の件数（23件/年）に比べて大幅に増加した。

施策	■子育て世代包括支援センターの機能強化	
	概要	相談者などの利便性の向上と、より適切な支援を可能とするため、オンライン相談や健診等に関するWeb予約システムを令和5年度中に導入するとともに、令和6年度からは新たに心理的ケアの専門職によるアウトリーチ（訪問）支援を実施するなど、妊娠期から子育て期の家庭において心穏やかに育児ができるよう、きめ細かな支援を行い、育児不安の軽減を図ります。
	取組	○オンライン相談の導入 ○Web予約システムの導入 ○専門職によるアウトリーチ（訪問）支援の充実
	実績・成果	・10月にオンライン相談を導入し、相談方法の選択肢を増やすことで市民の利便性の向上を図った。 ・10月に乳幼児健診、育児離乳食教室、後期・完了期離乳食教室、パパママクラスの予約・変更等がWeb上でできる「こども育み予約サイト」を導入し、市民の利便性の向上を図った。 ・アウトリーチ（訪問）により相談につなげることができるよう、令和6年度の実施に向け心理職の確保等の準備を行った。
	■子ども体験機会の創出	
	概要	地域全体で子育てを応援する機運の醸成や、子育てに関する取組の更なるPRに努めるとともに、子育て応援者・子ども応援団体等と連携・協力する中で、スポーツ、文化・芸術など幅広い分野での体験機会を子どもたちに提供する場を創出し、次代を担う子どもたちの無限の可能性を引き出し、夢や希望を持って健やかにたくましく成長していけるよう後押しします。
施策	取組	○子ども応援フェスタの開催 ○夏休み子ども体験教室の開催 ○親子運動遊びイベントの開催 ○子ども応援デリバリー事業の実施
	実績・成果	・文化、芸術に触れる体験をメインとした「子ども応援フェスタ（アートであそぼ!）」を開催し、約2,800人に来場いただいた。 ・スポーツや運動遊びなどの体験をメインとした「子ども応援フェスタ（お城であそぼ!）」を開催し、約6,500人に来場いただいた。 ・子どもたちの夏の思い出作りを後押しする「夏休み子ども体験教室」を開催し、計248名の親子に参加いただいた。 ・親子で楽しみながら運動遊びの重要性を知ってもらうため、甲府大好きまつり内及びこころ健康フェスタ内で、それぞれ「親子運動遊びイベント」を開催し、計294名の親子に参加いただいた。 ・子ども応援団体が主催する4件のイベントに「子ども応援デリバリー事業」を通して様々な体験機会を提供した。（内1件は荒天により中止）
	■子育て負担の軽減	
施策	概要	産後ケア事業の一層利用しやすい環境を整えるため、宿泊型・日帰り型の産前産後ケアセンターの利用料と、助産師がご自宅に伺いケアする訪問型のおうちdeホッとママケアの利用料の助成を拡大するとともに、核家族化の進行や共働き世帯の増加など、子どもたちを取り巻く環境が変化する中で、公立保育所において2歳児までとしていた児童の主食を含めた完全給食の提供を、令和5年度より、3歳児から5歳児まで拡充し、児童の食育の推進に加え、保育所に子どもを預ける子育て世帯の負担軽減を図ります。
	取組	○産前産後ケアセンターの利用料の助成の拡大 ○おうちdeホッとママケア利用料の助成の拡大 ○公立保育所における主食の提供
	実績・成果	・4月から利用料の助成の拡大を行い、産前産後ケアセンターを利用しやすい環境を整え、利用促進を図った。 ・4月から利用料の助成の拡大を行い、おうちdeホッとママケアを利用しやすい環境を整え、利用促進を図った。 ・児童が残さず食べられるように、混ぜご飯や丼もの、麺類（ラーメンやスパゲッティ）、パン類（食パン、コッペパン）など、バラエティ豊かな主食メニューを提供し、保護者へのアンケートでは、90%以上の保護者から満足という結果を得た。

1-2 安心できる居場所づくり

不登校・いじめ対策の強化や保育環境の充実に取り組むなど、子どもが安心できる居場所づくりを進め、みんなの笑顔を育みます。

■ 児童生徒支援センターの開設

概要 不登校をはじめ、いじめや特別支援教育に係る児童生徒、保護者からの相談窓口を一元化した「児童生徒支援センター すてっぷ」を令和 5 年度に設置することにより、相談者の利便性の向上に加え、専門の担当者が関係機関と連携し、児童生徒に寄り添ったきめ細かな相談支援を円滑に実施します。

取組 ○児童生徒支援センターの設置 ○児童生徒支援センターの認知度の向上

実績・成果

- ・4月に「児童生徒支援センター すてっぷ」を設置した。
- ・「児童生徒支援センター すてっぷ」のチラシの全家庭への配付や市ホームページへの掲載により認知度を高めた結果、年間を通して多くの相談があった。（相談件数：548件）
- ・相談者に寄り添った相談支援を行ったことにより、状況が改善された事例があった。
- ・相談について、学校が承知していない内容もあり、相談者の意向を確認しながら学校に情報提供し、学校の適切な対応につなげた。

■ 不登校総合対策の推進

概要 令和 5 年度より、中学校 2 校を不登校対策推進校として指定し、「スクリーニングシート」などを活用した不登校の未然防止や早期対応に取り組むとともに、校内教育支援センターを設置し、不登校対策専門の教員を配置する中で、不登校傾向の生徒や教室に入れない生徒の居場所づくりに努めるなど、不登校の生徒一人ひとりに寄り添った支援を行います。

取組 ○不登校対策推進校の指定・充実 ○学校内への教育支援センターの設置及び不登校対策専門の教員の配置

実績・成果

- ・市内 2 校を不登校対策推進校として指定するとともに、校内教育支援センター「ほっとルーム」を設置し、不登校傾向の生徒や、自分の教室に入りづらい生徒が、落ち着いた空間の中で学習や活動ができる場の提供を行った。
- ・2校で 39名の生徒が「ほっとルーム」への入級手続きを行い、日々 5～10名の生徒が自らが選んだ学習を行う中で、休みがちだった生徒が、ほぼ毎日登校して学習できるようになったり、自分の教室で授業を受けられるようになったりするなど、不登校の状況が改善した事例があった。
- ・「スクリーニングシート」を活用して、不登校になる可能性が高いと思われる生徒を早期に発見し、未然防止につながる取組を進めた。
- ・令和 6 年度から不登校児童生徒が学校外で相談や指導を受ける場合等について、指導要録上出席扱いにできるよう、不登校対策推進校で案をもとに検証を行いながらガイドラインを策定した。

■子ども応援施設の整備	
概要	民間の様々なアイデアや意見を取り入れる中で、児童館や放課後児童クラブ等の子どもに係る機能を組み合わせた施設を整備し、健全な遊びの場や、子育て中の親が交流できる場を創出し、子どもの心身の育成と、豊かな情操を育みます。
取組	○子ども応援施設の整備
実績・成果	・子ども、子育てに係る施設の設置に向けた、民間事業者等へのオープンサウンディング調査を実施した。 ・オープンサウンディング調査により抽出された課題を基に、より具体的な施設の活用の可能性を探る個別サウンディング調査の実施に向け準備を行った。
■保育環境の充実	
概要	令和5年度より、障がいのある子どもの受け入れ環境を充実するため、保育所等への補助制度を拡充するとともに、保育士の確保に向けた取組を強化するなど、保護者が安心して子どもを預けられる保育環境の創出に取り組めます。
取組	○障がい児保育の補助制度の拡充 ○保育士確保対策の充実
実績・成果	・特別児童扶養手当を受給している児童と普通障がい児の児童で保育士の加配要件に違いを設けていたが、同一にするとともに、補助単価の増額を行った。 ・幼保連携型及び保育所型認定こども園における、1号認定障がい児に対する補助制度を新設した。 ・甲府市保育連合会を通じて保育施設に対してアンケートを実施し、その結果を基に、保育施設が必要と考える保育士確保対策について意見聴取を行った。

1-3 新時代の特徴ある学びづくり

I C Tを活用した学習支援の充実や地域の特性に合った学び環境の創出など、新時代の学びづくりを進めます。

施策	概要	■ I C Tを効果的に活用した学力向上の推進	
		一人ひとりに合わせた最適な出題を行うA I型ドリルに加え、令和5年度からは新たな学習支援ツールの導入等により、I C Tの活用と従来の授業を組み合わせた教育を推進するとともに、教員のI C Tスキルや指導力を向上させることで、教育環境の高度化を図り、児童生徒の学習状況に応じた「個別最適な学び」や、クラスでアイデアを出し合うなどの「協働的な学び」により、甲府の子どもたちの学力向上に取り組みます。	
		取組 ○新たな学習支援ツール等の導入 ○A I型ドリルの利用促進 ○教員のI C Tスキルの向上 ○リーディングD Xスクール事業への参加	
		実績・成果 ・新たな学習支援ツール等を導入し、3校の小中学校において教育ビッグデータを利用した様々な取組を行うことで、個別最適な学びや、校務の効率化による教員の多忙化解消を推進した。 ・次学年の学習内容を発展的に学んだり、前学年の学習内容の振り返りを行ったりするなど、A I型ドリルの利用が促進された。 ・継続的な端末活用の支援や活用事例の紹介、研修等の取組により、教員のI C Tスキル及び指導力が向上したことで、I C Tを活用した新しい学びの定着につながった。 ・リーディングD Xスクール事業への参加によって、端末活用事例の創出を行うとともに、参加校のI C Tを活用した授業を公開する等、全国に向けた好事例の普及、横展開を図った。	
	概要	■ 通学区域の弾力化の推進	
		学校規模の適正化に向け、通学区域の弾力化や、小規模校の魅力ある学校づくりを推進し、子どもたちが多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて、一人ひとりの資質や能力を伸ばすことのできる教育環境を創出します。	
		取組 ○学校規模適正化の更なる検討 ○魅力ある学校づくりの推進	
		実績・成果 ・通学区域の弾力化の取組を推進するうえでの効果や課題を把握するため、通学区域の弾力化を利用した小学校1年生及び利用しなかった小学校1年生それぞれの保護者を対象にアンケートを行った。 ・市内小学校の児童推計を作成する中で、新たな弾力化の導入などが必要な区域の調査・研究に努めた。 ・千代田小学校においては、地域の住民の協力のもと、体験学習や地元の伝統祭りを学ぶ授業を行うとともに、湯田小学校においては、学生ボランティア3人が、各学年の授業のサポートに入り、きめ細やかな授業を実践するなど、それぞれの学校において、魅力ある学校づくりの推進を図った。	
	概要	■ コミュニティ・スクールの推進	
		令和5年度より、全ての市立小中学校をコミュニティ・スクールとし、学校や地域の課題を共有する中で、学校と地域が協力して学校運営に取り組む「地域とともに歩む学校づくり」を更に進め、学校を中心とした地域の活性化と、子どもたちの豊かな学びを実現します。	
		取組 ○全小中学校への学校運営協議会の設置	
		実績・成果 ・令和5年度より、市内全小中学校に学校運営協議会を設置し、コミュニティ・スクールとした。 ・各学校運営協議会で地域と学校の課題等を共有する中で、今後の学校への支援体制について協議した結果、登下校時の見守り、花壇の整備、読み聞かせ、ミシンの学習や調理実習等の場面で学校をサポートするなどの取組を行った。 ・学校運営協議会の活動をより良いものにするために、各学校の担当者が出席するコミュニティ・スクール連絡協議会を年2回開催し、各学校の取組について情報共有するとともに、アドバイザーである大学教授から、今後の活動のヒントとなるアドバイスを受けた。	

1-4 こうふ愛の醸成

開府 5 0 0 年をきっかけとして大きく育った『こうふ愛』を一層醸成します。

施策	■ 未来に向けた人づくりの推進	
	概要	こうふ開府 5 0 0 年で育まれた「こうふドリームキャンパス」と「私の地域・歴史探訪」、「甲府ラーニング・スピーチ」の 3 つのレガシー事業の推進に加え、「甲府市の歌」を学校やまちなか、イベント等で聴き・歌い・触れ合う機会の創出に取り組み、「ふるさと甲府」への誇りと愛着を更に育み、市民の一体感と未来に向けた人づくりにつなげます。
	取組	○「こうふ開府 5 0 0 年レガシー事業」の推進 ○「甲府市の歌」の普及啓発
	実績・成果	・授業やイベント等を通して子どもたちが各界で活躍する「夢の先生」から夢を持つことの素晴らしさや生きるうえで大切なことを学ぶ「こうふドリームキャンパス」を21回実施し、参加者は10,307人（「こうふ開府の日」イベント参加者含む。）であった。 ・さまざまな世代が地域の歴史・文化・伝承等を学ぶことで地域への愛着を深める「私の地域・歴史探訪」を13回実施し、参加者は779人であった。 ・子どもたちが地域の歴史等を自ら学び、自らの言葉でスピーチする「甲府ラーニング・スピーチ」を 2 回実施し、記念式典やイベント等の場において小中学校各 1 校が発表した。 ・小中学校やスポーツ協会、文化協会へ音源を配布し、授業やスポーツ大会、文化祭などを通じて、普及啓発を図った。 ・歌詞入りポスターを作成し、小中学校や市関連施設へ配布・掲出した。 ・12月1日から20日までの間、防災無線の音源を次世代甲府大使の魚田愛音さんによるピアノ演奏に変更し、認知度の向上を図った。 ・歌詞入りクリアファイルを作成し、「甲府きょういくの日コンサート」などにおいて配布した。 ・市役所電話保留音を「甲府市の歌 ピアノバージョン」へ変更した。 ・「甲府市の歌」に関するアンケートを実施し、歌える人の割合が51%に増加した。（R4は40%）
	■「こうふ開府の日」記念事業の実施	
	概要	甲府誕生の原点である 1 2 月 2 0 日の「こうふ開府の日」に向けて、「こうふ開府 5 0 0 年レガシー事業スペシャル版」と「こうふ開府の日」記念イベントを一体的に開催し、特別な記念日として市民みんなでお祝いし、更なるこうふ愛の醸成につなげます。
	取組	○「こうふ開府の日」イベントの開催
	実績・成果	・広報誌、市ホームページ、新聞、ラジオ、情報誌、SNS等の様々な媒体を活用して周知を行った。 ・12月初旬から12月20日にかけて「こうふドリームキャンパススペシャル」と「私の地域・歴史探訪スペシャル」を行ったほか、市立小中学校で12月20日（小学校は19日と20日の2日間）に「こうふ開府の日お楽しみ給食」を提供して「こうふ開府の日」の認知度向上につなげた。 ・12月20日「こうふ開府の日」イベントを開催して約7,500人の来場者を迎える中、市内中高生によるステージ、「こうふドリームキャンパススペシャル」のほか、夢や希望を込めた「未来ランタン」や「こうふ冬花火」の打ち上げ等を行い、こうふ愛の醸成を図った。

NEXT ACTION 2

輝き栄えるまち

施策の方向性

- 2-1 まちなかの交流・賑わいの創出
- 2-2 四季折々の観光づくり
- 2-3 輝きあふれる地場産業づくり
- 2-4 人・企業から選ばれるまちづくり

多彩な地域資源の魅力を高め、人と地域が輝き栄えるまちづくりに取り組みます。

2-1 まちなかの交流・賑わいの創出



まちなかの拠点を着実に整備するとともに、まちなか再生ビジョンの策定や実行組織づくりなどを進め、新たな交流と賑わいを生み出します。

■小江戸甲府 城下町整備事業の推進

概要
甲府城と市内の各拠点をつなぐ新たな歴史文化のランドマークとして、甲府城南側が賑わいの創出と回遊性の向上に資するエリアとなるよう、令和7年度の供用開始を目指して歴史文化交流施設や江戸風まちなみ散策路の整備を推進し、本市が紡いできた重層的な歴史・文化を感じながら周遊・交流できるまちを次代につなぎます。

取組
○歴史文化交流施設の整備 ○江戸風まちなみ散策路の整備

実績・成果
・歴史文化交流施設の集客性、収益性を高めるため、設計・施工から整備後の管理運営までの企画提案を一括して求めるDBO方式により整備することとし、公募型プロポーザル方式で事業者を選定後、当該事業者の義務や責任等を定めた基本契約及び工事に係る請負契約を締結した。
・江戸風まちなみ散策路の無電柱化に伴う電線共同溝工事などを実施した。

■遊亀公園・附属動物園の再整備

概要
子どもたちが動物たちとふれあい、命の尊さを大人と一緒に学ぶことができ、動物本来の生態を観察できる、まちなかの動物園となるとともに、子どもたちが本市の自然や歴史を感じながら健やかに成長でき、幼児から高齢者までの多様な年代が利用できる公園となるよう、動物園と公園を一体的に再整備し、次の世代に誇りを持って引き継ぐことができる賑わいの拠点づくりを進めます。

取組
○遊亀公園・附属動物園の再整備

実績・成果
・獣舎敷地の拡張等のための池の埋立等工事を完成した。
・「ビジターセンター」「ふれあいセンター」「厩舎・家畜舎」「動物病院」の4つの施設を完成した。
・民間事業者が試験的に自由な手法で事業を行う市場調査「トライアルサウンディング」を実施し、得られた情報を整理し、民間活力の導入に向けた課題を整理した。

施策の成果

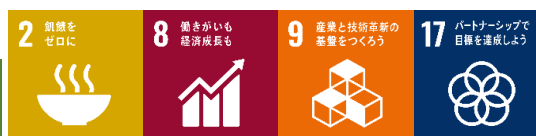
■新たなまちなか再生事業の推進	
概要	まちなか再生にむけ、活動意欲や機動力を持って挑戦するプレイヤーが参画する官民連携まちづくりの基盤組織である「甲府まちなかエリアプラットフォーム」を中心に、「まちなか再生ビジョン」及びそのアクションプランを令和6年度までに策定し、多彩な地域資源や特性を活かしたまちなかの将来像の実現に向けた取組を、企画から実行まで一体的かつ実効性をもって進め、持続可能な新たな地域づくりにより、まちなかの再生を目指します。
取組	○プレイヤーとの共創体制の強化 ○まちなか再生ビジョンの策定・推進
実績・成果	・プレイヤーとの共創体制の強化に向け、認識共有や意見交換の場として、甲府まちなかエリアプラットフォーム会議など計8回の対話機会をつくり、活発な議論を生むことができた。 ・オリオン通りにおいて、公共空間活用の円滑化に向けた社会実験「みち活チャレンジWEEK」を実施し、公共空間活用促進に向けた課題と今後の展望をまとめた。 ・甲府まちなかエリアプラットフォームでの議論と参加型情報メディア「my groove ころふ」で募集した意見を踏まえ、まちなか再生ビジョンのビジョン編にあたる官民連携まちづくりの基本的な考え方を示した「甲府まちなか未来ビジョン2024」を策定した。
■中心市街地活性化対策	
概要	甲府城周辺と遊亀公園・附属動物園を結ぶ、快適で高質な道路空間の整備に加え、まちなか再生の要の一つである岡島百貨店跡地の再開発への支援や商店街をはじめとする拠点の魅力と、まちなかの回遊性・滞留性の向上等に資する取組の展開により、中心市街地のエリア価値を高め、地域商店街の振興・中心市街地の活性化・まちなかの再生につなげていきます。
取組	○岡島百貨店跡地の再開発への支援 ○春日本通り線の整備 ○新規出店機会の創出とまちなかの回遊性・滞留性の向上
実績・成果	○岡島百貨店跡地の再開発への支援 ・再開発に関する全体計画書の審査及び事業効果等の確認を行い、優良建築物等整備事業として事業化した。 ・良好な空間形成に向けた景観デザインレビューを行い、有識者等から建物の形態意匠等に係る意見を聴取した。 ・既存建物解体工事等に係る令和5年度分の補助金を交付した。 ○春日本通り線の整備 ・整備区間220mのうち第1期工事として100mを完成した。 ○新規出店機会の創出とまちなかの回遊性・滞留性の向上 ・中心市街地への店舗出店のきっかけとなるよう、中心市街地のイベントにお試しで出店できる「ハジメテマルシェエリア」を設置するとともに、中心市街地の既存店舗の営業時間外や店舗内の空きスペースを活用し気軽に出店していただく「店舗シェアサービス」を創設した。 ・小江戸甲府の夏祭り、信玄公祭り及びえびす講祭りの際に来場者が会場周辺の店舗でお得なサービスが受けられる情報をSNSやチラシ等で周知し、中心商店街への誘客促進及び飲食店の売上げの向上に資する「飲食店誘客促進事業」をはじめ、山梨県庁噴水広場や舞鶴城公園、かすがも〜等、公共空間を活用したイベント事業「甲府のゆたかなWEEKEND」や、甲府の未来のまちを描く市民参加型の「まちなか創造ワークショップ」、更には、子ども応援フェスタの開催に併せ、「こどもフォトラリー」を開催するなど、まちなかへの来街機会の創出、回遊性・滞留性の向上に努めた。

2-2 四季折々の観光づくり

四季折々の豊かな自然と都市機能を活かし、甲府ならではの観光コンテンツをつくります。

施策	概要	■御嶽昇仙峡や信玄の湯 湯村温泉の魅力の磨き上げ 日本遺産や甲武信ユネスコエコパークに認定されている「御嶽昇仙峡」や「信玄の湯 湯村温泉」は、本市の主要な観光地であることから、民間事業者と連携した受入環境の整備に取り組み、誘客促進と観光消費の活性化につながるようそれぞれのエリアの磨き上げによる高付加価値化を進めます。
		取組 ○観光地の高付加価値化の推進 ○景勝地の文化資源を活用した取組
		実績・成果 ・昇仙峡を訪れた歌人の短歌を歌碑として遊歩道に設置し、昇仙峡エリアの高付加価値化を図った。また、昇仙峡観光協会の自主事業「昇仙峡短歌コンテスト」に補助金を交付して実施を支援した。 ・昇仙峡を訪れる観光客の受入環境を整えるため、地元観光協会や民間団体等と連携して昇仙峡エリア内の公衆トイレ（天神森・天鼓林・県営駐車場・滝上）の清掃活動を実施した。 ・昇仙峡ロープウェイ横の麦坂道を活用した昇仙峡マウンテンバイクパークが開業したことにより、「マウンテンバイク」を活かしたライドイベントを行った。 ・「信玄の湯 湯村温泉」の再開発事業に係る国の補助金について、山梨県と本市で申請書類の作成支援を行い、採択につなげることができた。
	概要	■自然と都市機能を活かした観光振興 本市の強みである、四季折々の豊かな自然と都市機能が融合した、山のぼり・まち歩きの更なる推進に加え、令和6年度以降に、自然・歴史・文化を最大限活かしたスポーツ・アウトドアによる付加価値の高い新たな観光コンテンツの事業展開を目指す中で、自然とまちが織りなす都市観光を展開し、誘客の拡大につなげます。
		取組 ○スポーツ・アウトドアを活用した観光振興 ○スポーツ・文化合宿等の誘致 ○山のぼり・まち歩きの促進
		実績・成果 ・自転車を活用したイベントを令和6年度に開催するための準備を進めるとともに、新規アクティビティの開発に向け昇仙峡観光協会等と意見交換を行った。 ・「甲府市スポーツ・文化合宿等誘致補助金」に8件、459人泊の利用があり、市内宿泊施設の活用等による誘客促進を図った。 ・YAMAP×やまなし県央「山のぼり・まち歩き」キャンペーンを9月1日から11月30日まで開催し、21,783名が参加したとともに、ごみ拾い等の環境美化活動にご協力いただける参加者2,146名を「やまなし県央クリーンハイカー」に認定した。
	概要	■広域観光の推進 「やまなし県央連携中枢都市圏」を形成する市町とともに、行政区域に捉われない広域的な観光エリアを形成し、それぞれの地域が有する自然、歴史、文化、食などの豊富な観光資源を結び付け、より大きな魅力と訴求力を高めることにより、圏域全体の交流人口の増加と地域経済の活性化を目指します。
		取組 ○広域的な観光プロモーションの展開 ○連携自治体ツーリズムの実施
		実績・成果 ・広域観光プロモーション事業として「県央ネットやまなし観光エリア」を発足させ、観光アンバサダーの任命やPR動画の作成と首都圏をメインターゲットとしたプロモーションを実施し、本エリアの魅力をPRした。 ・連携自治体ツーリズム事業として圏域内のニーズ調査及び研修会を実施し、令和6年度より実施する商品造成やインバウンド誘客等の見識を深めるとともに、モニターツアーにより圏域の魅力ある観光資源の確認とプロモーションを実施した。

2-3 輝きあふれる地場産業づくり



ジュエリーや印伝、ワインなど地場製品のブランド価値の向上と地場産業の活性化に取り組みます。

■地場産業の更なる活性化

概要 新たな産業施策の構築に向け、本市全般の産業構造や今後の市場予測の把握のための市場調査と分析を令和5年度に実施し、令和7年度以降の具体的な取組の実施につなげていくとともに、地場製品ツーリズムの展開による新たな顧客を獲得するなど、「稼ぐ力の向上」を目指します。

取組 ○新たな産業施策の構築に向けた調査・分析 ○ツーリズム等の実施による地場製品の認知度の向上

実績・成果 ・新たな産業施策の構築に向けた調査・分析業務を行い、3月に調査報告書を作成し、本市宝飾産業の強みや弱み、課題を整理する中で、令和6年度以降の取組の方向性を検討した。
・首都圏からバスを走らせ、ワイナリー巡りをはじめ、ジュエリーや印伝に触れる機会を創出した。（3月2日開催、参加者45名）
・甲府空中市（ソライチ）に本市の地場産品等を扱う事業者の出店機会を創出した。（第1回目【8月20日】出店者4店舗、第2回目【2月18日】出店者6店舗）
・こうふはこうマルシェにワインやジュエリーなどを出品し、甲府の地場産品を広く知ってもらう機会とした。また、店を持たない方や創業間もない方への出店機会を創出するとともにステージイベントなどの内容を拡充した。（3月2日開催、出店者81店舗）

■宝石のまち甲府プロジェクトの推進

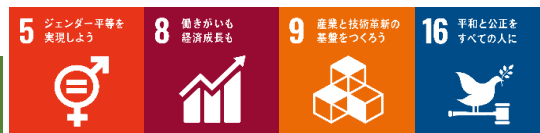
概要 世界有数のジュエリーの集積産地である本市の強みを活かした新たなジュエリー文化を創造し、魅力が伝わるコンテンツを通じて発信するとともに、日本最大級のファッションフェスタでのPRや甲府ジュエリーの広告塔の起用に加えて、高校生などを対象としたジュエリーデザインコンクールを開催するなど、「甲府ジュエリー」のブランド化と「宝石のまち甲府」の認知度のなお一層の向上を図ります。

取組 ○「甲府ジュエリー」ブランディングの推進 ○「甲府ジュエリー」プロモーションの推進

実績・成果 ・9月2日に開催された「第37回 マイナビ 東京ガールズコレクション2023 AUTUMN/WINTER」にて、「～宝石のまち甲府～KOFU JEWELRY LOVE PROJECT STAGE」を展開した。ステージでは、世界に誇る宝石のまち甲府から、新たなジュエリー文化である「甲府ジュエリーラブプロジェクト」を発表するとともに、甲府ジュエリーの歴史と魅力を発信した。
・「甲府ジュエリーインフルエンサー制度」を創設し、SNSなどを通じて「甲府ジュエリー」情報の発信を展開するとともに、寄附者の増加に努めた。
・「マイナビ子育て」、「マイナビウエディング」において、「甲府ジュエリーラブプロジェクト」の全国発信を行い、「甲府ジュエリー」の販路拡大を図った。

■ 鳥獣被害防止対策の推進	
概要	北部地域に続いて、優良農地の保全と営農環境の改善を図りながら、持続可能な地域農業の実現に向け、中道南地区における、鳥獣被害防止対策を含む農業生産基盤の整備を総合的に実施する土地改良事業を導入するため、令和 6 年度までに土地改良事業推進協議会を設立し、令和 7 年度の事業着手を目指します。
取組	○農業生産基盤の整備
実績・成果	・整備要望路線等の現地調査及び内容精査を行いながら、効果的な対策について検討した。 ・説明会を開催しながら協議や調整を進める中で、整備路線や推進協議会設立について地元との合意形成を図った。
■ 都市農業の活性化	
概要	「農あるくらし」に憧れを持つ市民や、甲府に移住した都市住民等を対象に、仕事を持ちながら農業に挑戦する「半農半X」というライフスタイルを支援するため、相談から栽培技術の指導や農業用機械の貸し出し、耕作地の紹介までを切れ目なく支援することにより、農業の多様な担い手の確保と、本市における新規就農者の開拓や、担い手の定着、農地の保全などにつなげ、都市農業の活性化を推進します。
取組	○切れ目ない「半農半X」のサポート体制の構築
実績・成果	・「半農半X」応援事業について、市公報、農業委員会だより（2,800部）、都市住民が読者の雑誌（メトロミニッツ 10万部）に掲載するとともに、市ホームページやSNS等で情報を発信し、事業の周知やPRに努めた。 ・ワンストップ窓口において、「半農半X」に係わる32件の相談があり、きめ細やかなサポートを行った結果、2名を仕事をしながら農業を実践するライフスタイルに結び付けることができた。 ・技術面のサポートとして19件の栽培技術の相談に対応した。

2-4 人・企業から選ばれるまちづくり



本市の強みや地方への関心の高まりを活かし、人・企業から選ばれるまちづくりを進めます。

■企業誘致対策の強化

概要 リニア開業をはじめとする広域的な交通利便性や首都圏との近接性など、本市の立地優位性を活かした企業誘致活動の継続に、「中小企業の成長・拡大」と「スタートアップ企業の誘致」に向けた新たな誘致活動を加え、企業誘致対策の強化を図る中で、特定機能補強地区を中心に民間開発を視野に入れた産業立地の促進に取り組みます。

取組 ○スタートアップ企業の誘致 ○中小企業の成長・拡大に向けたスタートアップ企業との連携

実績・成果
・スタートアップ支援施設を訪問し、スタートアップ企業との面談を行い企業情報を収集した。
・スタートアップ企業の情報を収集する中で、そのスタートアップ企業の持つ革新的なアイデアや技術と親和性の高い中小企業とのマッチングを行い、2社の企業との新規事業を創出した。
・企業課題の抽出に向けたアンケートを行い、マッチングを行う中小企業を6社抽出した。
・中小企業とスタートアップ企業のマッチングとして、1回目となる面談を行った。

■雇用創出の推進

概要 少子高齢化による労働力人口の減少が進む中、行政エリアを越えた労働力の定着と事業者の継続性などを高めるため、圏域自治体との連携によるオンライン合同企業説明会や対面での就職マッチング機会を創出し、地方移住に関心のある県外の学生や外国人などの雇用の促進による地域産業の活性化を図ります。

取組 ○地元企業と若者のマッチング機会の創出

実績・成果
・やまなし県央連携中枢都市圏合同企業説明会を7月8日にアイメッセ山梨にて開催し、参加企業165社、参加者176人、当日の面談数680回、内定及び採用者数14名となった。
・県央ネットやまなしオンライン合同企業説明会を3月7日・8日の2日間開催し、参加企業94社、参加者201名（延人数）となった。
・どちらも参加企業数や面談数、採用者数から、圏域企業のマッチング機会の創出において一定の効果があり、圏域の労働力不足解消へ行政が前向きに取り組む姿勢を示せた。

■多様な人材の活躍支援	
概要	女性が自分らしく活躍できる場の創出に向けた取組をはじめ、ジェンダー平等の実現に向けた啓発及び教育を推進するとともに、令和6年度から、留学生の地域活動への参画を促進するプラットフォームを構築し事業を展開するなど、留学生の活躍を「地域の国際化」へとつなげ、市民の国際感覚の醸成を図ります。
取組	○女性の活躍と交流等の場の創出 ○ジェンダー平等の実現に向けた啓発及び教育の推進 ○国際交流の推進
実績・成果	・各大学との協議や留学生からの意見等を踏まえ、1月、各大学においてプラットフォーム「こうりゅうネット」への参加募集を開始した。 ・女性のための起業等支援事業「Can-Pass（キャンパス）」及び「Can-Pass plus（キャンパスプラス）」を実施し、経営相談に応じる公的機関や金融機関等と連携する中、起業等、女性の多様な働き方を支援することができた。 ・女性の交流の機会として「女性ロールモデルとの交流会」を5回開催し、様々な職種7名のロールモデルと身近に触れることで、参加女性が活力を得てキャリアデザインやコミュニティの形成につながる場となった。 ・「こうふ女性達で創るマルシェ」を開催し、女性の活躍と交流の場としての役割を果たすとともに、女性の活躍を広く市民等に知ってもらい、女性を応援する機運を高めることができた。 ・多くの市民に男女共同参画や女性活躍の考え方を身近に感じていただく機会として、放送作家である野々村 友紀子さんによる講演会を開催し、357人に聴講いただいた。 ・甲府商業高等学校及び市内4大学に協力いただき、授業の時間等を活用する中で、性に関する講座としてDV・デートDV予防講座を実施し、若年層に対するジェンダー平等意識の醸成を図った。 ・「甲府市留学生担当者連絡会」において、プラットフォーム「こうりゅうネット」による留学生の活躍推進と地域の国際化の趣旨に各大学から賛同を得るとともに、今後の事業推進に向けた大学と本市、大学同士の連携体制を構築した。 ・スタートアップメンバーの留学生と意見交換会を2回開催し、留学生の「求める交流」や「必要な情報」などについて現実的な意見を得た。

NEXT ACTION 3

健康で安心して 暮らせるまち

施策の方向性

- 3-1 健康危機への迅速な対応
- 3-2 在宅医療・介護の体制づくり
- 3-3 からだとこころの健康増進
- 3-4 動物と共に生きる社会づくり

ともに支え合い、自分らしく健康で安心して暮らせるまちづくりに取り組みます。

3-1 健康危機への迅速な対応



保健所を中心に関係機関等との連携体制を強化し、健康危機への迅速な対応につなげます。

■ 健康危機管理体制の強化

施策概要

新型コロナウイルス感染症に関するこれまでの取組を踏まえ、様々な感染症危機に備えて保健所が「健康危機管理拠点」としての機能を発揮するため、令和5年度に「感染症予防計画」を策定し、更なる体制整備に取り組んでいくとともに、平時から市立甲府病院等の医療機関や関係団体との連携強化を図り、迅速に対応できる仕組みを構築します。

取組

○感染症予防計画の策定・推進 ○関係機関との連携強化

実績・成果

- ・感染症予防計画の策定にあたり、感染症対策連携会議を設置し、平時から感染症対策の準備を進める仕組みづくり等について意見聴取し、社会福祉施設等における感染症対策及びIHEAT要員の養成等に関する新たな取組を反映し策定した。また、山梨県感染症連携協議会に参画し、県予防計画や関連計画等との整合性を図るとともに県との連携を強化した。
- ・予防計画に定める保健所体制を確保し、平時から感染症健康危機に備えた準備を計画的に進めるため、健康危機対処計画（感染症編）を策定した。
- ・健康支援センター職員を対象とした感染症対応訓練（個人防護具着脱）を3回に分けて実施し、人材を養成した。
- ・感染症対策連携会議（3回）における意見交換、感染対策連携カンファレンス（2病院8回）及び感染対策連携訓練（全県1回）への参加により、医療機関や関係団体との顔の見える関係づくりに努め連携を深めた。

3-2 在宅医療・介護の体制づくり

高齢化の進展による在宅療養に係るニーズの増加や人口減少に伴う担い手不足を見据え、住み慣れた地域で、安心して暮らせるための在宅医療・介護の体制づくりを加速します。

施策	概要	■在宅医療・介護連携の推進 医療と介護の両方を必要とする高齢者が、住み慣れた地域で自分らしく暮らせるよう、令和5年に在宅療養後方支援病院となった市立甲府病院と市内医療・介護関係機関の連携強化による「甲府スタイル」の在宅医療・介護の体制づくりを推進するとともに、連携中枢都市圏を構成する市町との協働による広域連携のメリットを生かし、ICTを活用した連携の促進や研修会による医療・介護従事者のスキルアップなどに取り組みます。
	取組	○切れ目のない提供体制構築に向けたネットワーク形成支援 ○医療・介護人材のスキルアップ・確保・定着支援 ○住民への普及啓発及び意思決定支援
	実績・成果	・在宅療養後方支援病院の登録患者については48名、入院受入れについては21名であった。 ・代表者会議と4つのワーキンググループによる甲府市の体制づくりの検討を行った。（代表者会議2回開催、WG各3回開催） ・多職種連携のための顔の見える関係づくり交流会を開催した。（参加者数124名） ・医療介護情報検索システムを導入し、11月1日から運用を開始した。 ・多職種連携のための基礎講座及び多職種連携のためのステップアップ講座を開催した。（参加者数 基礎講座：65名 ステップアップ講座：208名） ・在宅療養の普及啓発及び医療介護専門職の魅力発信動画の作成・配信を行った。（配信：市ホームページ、YouTube、SNS、本庁舎大型ビジョン、MIRAITOヤマナシ、市立甲府病院外来、JCHO山梨病院職員研修、DVD配付：医療介護関係団体、県立大学、市教育委員会等） ・「身寄りのない方への対応事例集」を作成した。 ・ACPの普及啓発ツール「わたしの想いノート」を作成した。（2,494冊配布、ポスターで周知） ・専門職キャラバンによる「在宅療養に関する出前講座」を実施した。（開催回数4回、参加者数66名） ・市民向け在宅医療懇話会を開催した。（甲府市医師会共催 参加者数124名）

3-3 からだところの健康増進



誰もが生きがいを持って豊かに暮らせるよう、市民と共に、からだところの健康増進を力強く進めます。

施策概要	■からだの健康づくりの推進	
	概要	健康都市宣言から5年を迎える本市の健康づくりを更に推進するため、一人ひとりの健康管理を促すための健康アプリを令和5年度に導入するとともに、民間企業と連携した働き盛り世代の健康づくりを推進するなど、地域や団体等との連携により、みんなが元気で、笑顔が絶えない「元気Cityこうふ」の実現を目指します。
	取組	○アプリを活用した健康づくり支援 ○民間企業と連携した働き盛り世代の健康づくり支援 ○健康都市宣言5年記念事業の開催 ○生涯を通じた歯・口腔の健康づくりの推進
	実績・成果	・こうふ健康アプリの運用を11月より開始し、585名の登録があった。 ・自身の健康づくりについて優先順位が低くなりがちな働き盛り世代に向け、生活習慣の改善・健康づくりにつながるオンラインセミナーを3回開催し、延べ598名の参加があった。 ・12月10日、ふじでんスタジアム（緑が丘スポーツ公園）で健康都市宣言5年記念事業「こうふ健康フェスタ」を開催し、Newスポーツ体験や健康ブース、子ども向けのショーなど約4,000人が参加した。 ・成人歯周疾患健診においては、受診者増への取組として健康保険課の特定健診受診券に受診勧奨通知を同封したことや、歯科健診や受診勧奨等を実施する自治体を支援する厚生労働省のモデル事業を活用したターゲットを絞った受診勧奨、また、30代の国保被保険者へ受診勧奨を実施した。その結果、受診者数は令和4年度実績827人を大きく上回る2,470人を達成した。うち、モデル事業による実績は、受診勧奨対象者6,427人に対し、受診者1,373人であった。 ・生涯を通じた歯・口腔の健康づくりの推進への体制・環境整備として、関係各課や関係機関との協議を行い、第9次保健計画に新たに施策として位置づけた。
	■緑が丘スポーツ公園の整備	
	概要	各種大会会場や競技スポーツの練習会場として、また、子どもから大人までが楽しみ利用できる公園を目指し、令和6年度までに、野球場・外周道路・テニスコートB等の整備を着実に推進するとともに、今後の整備に向けて検討を重ねるなど、市民の健康増進・体力づくりに寄与する生涯スポーツの拠点づくりに取り組みます。
実施状況	取組	○緑が丘スポーツ公園の整備
	実績・成果	・屋外トイレ建設工事を完成し、供用開始した。 ・テニスコート南側外周道路工事を完成し、供用開始した。 ・野球場本部棟及び内野スタンド工事を完成し、4月に供用開始予定としている。
	■こころの健康づくりの推進	
実施状況	概要	ひきこもりの当事者世帯を、社会全体で支援していく体制づくりに向け、ひきこもりに関する正しい知識を持った理解者を地域に増やすとともに、新たな相談機会として、対面での交流に抵抗のある方でも相談できる、インターネット上のメタバース（仮想空間）を用いた相談窓口を令和5年度に開設し、ひきこもりの方の、孤独感の解消と将来的な自立に向けて支援をします。
	取組	○ひきこもりに関する理解促進のための研修会の実施 ○メタバースを活用したひきこもり相談支援
	実績・成果	・民生委員・児童委員355名が参加のもと、「ひきこもりサポーター研修会」を実施した。 ・多くの民生委員・児童委員の方に対し、ひきこもりに関する正しい知識の普及・啓発が図られたほか、本市のひきこもり支援の状況や事業内容の説明により、地域におけるひきこもりの理解者の増加につながった。 ・10月より「メタバース（仮想空間）」を用いたひきこもり相談窓口を開設し、令和5年度末で、誰でも24時間入室可能な「心のよりどころ空間」に、3,756件のアクセスがあったが、「森の相談ルーム（個別相談）」の実績は0件であった。

3-4 動物と共に生きる社会づくり

私たちの心に多くの潤いと安らぎをもたらしてくれる動物と人が共に生きる社会づくりに取り組みます。

■ 動物愛護事業の推進

施策

概要

市民の動物愛護への理解促進やペットの適正飼養の指導をはじめ、譲渡会の開催や地域猫活動などの推進による「犬猫の殺処分ゼロ」を目指した取組を行うことで、人と動物が共に生きる社会づくりの実現を目指します。

取組

○動物愛護と適正飼養の推進

実績・成果

- ・飼い猫及び飼い主のいない猫への不妊去勢手術費に対する補助事業を行い、1,014件の申請を受け付け、猫の無秩序な繁殖の抑制に努めた。
- ・猫が苦手な人へ超音波忌避装置の貸出を行い、37件の申請を受け付けた。
- ・譲渡会を開催し、飼い主のいない猫を新たな飼い主につなげる取組を行った。
- ・動物愛護デーイベントを開催し、適正飼養の啓発を行った。

グリーンで快適なまち

施
策
の
方
向
性

- 4-1 新たな価値を生み出すまちづくり
- 4-2 リニア駅周辺のまちづくり
- 4-3 ゼロカーボンシティの実現
- 4-4 暮らしやすい都市基盤の整備

未来へつなぐ、環境にやさしいグリーンで快適なまちづくりに取り組みます。

4-1 新たな価値を生み出すまちづくり



リニア新時代に向け、甲府の個性と存在感を発揮するまちづくりを進めます。

施 策	概要	■二つの拠点を核としたまちづくり 甲府駅周辺とリニア駅周辺という個性の異なる二つの拠点を核とした「新たな価値を生み出すまちづくり」を推進し、リニア開業効果を最大限波及させるため、リニア駅周辺では、「近未来の産業・暮らしの社会実装」の視点や、甲府駅周辺との連携・補完の視点を取り入れたまちづくりを検討するとともに、甲府駅周辺では、プレイヤーとの共創により既存の魅力を高める「新たなまちなか再生事業」に着手し、甲府駅周辺の魅力を最大化させる拠点づくりを先導します。
	取組	○リニア新時代を見据えたまちづくりの推進
	実績・成果	・二つの拠点の連携・補完の考え方を11月に策定した「（仮称）リニア山梨県駅前エリアのまちづくり基本方針」の方針3に位置付けた。 ・民間事業者のビックデータや都市分析ツールを活用して、具体的な施策や事業について検討を開始した。 ・甲府まちなかエリアプラットフォームでの議論と参加型情報メディア「my groove ころふ」で募集した意見を踏まえ、まちなか再生ビジョンのビジョン編にあたる官民連携まちづくりの基本的な考え方を示した「甲府まちなか未来ビジョン2024」を策定した。

4-2 リニア駅周辺のまちづくり

リニア駅前の特別なポテンシャルを活かし、駅周辺をゼロカーボンの実現と新産業の育成に資する象徴的なエリアにします。

施策	概要	■リニア駅周辺整備の推進 「近未来の産業、暮らしを社会実装するまち」、「誰もが目的地にシームレスに移動できるまち」、「平常時も災害時も活躍するフェーズフリーなまち」の実現に向け、リニア駅前のまちづくりを進める基本方針を策定するとともに、民間事業者や有識者等との意見交換を踏まえる中で、基本計画の作成に着手し、官民双方の強みを活かした適切な役割分担により、事業の実現性を高める中、特色あるまちづくりを進めリニア駅前の価値を最大化させます。
	取組	○リニア駅周辺における官民連携のまちづくり
	実績・成果	・11月に「（仮称）リニア山梨県駅前エリアのまちづくり基本方針」を策定し、次のフェーズとなる基本計画の策定に着手する中で、先行するリニア駅前エリア内の他事業との調整が必要な基盤整備分野については、令和6年度中の基盤整備方針の策定に向け、優先的に検討を行った。 ・基本計画に学識経験者や産業・観光・交通に関する有識者の意見を取り入れるため、「（仮称）リニア山梨県駅前エリアのまちづくり基本計画検討委員会」を立ち上げ、委員会を2回開催した。

4-3 ゼロカーボンシティの実現



脱炭素の加速と再生可能エネルギーの促進など、『ゼロカーボンシティ』の実現を目指します。

■ゼロカーボンの推進

概要

2050年温室効果ガス排出量実質ゼロとなるゼロカーボンシティへの実現に向けて、「甲府市地球温暖化対策実行計画」に基づき、ゼロカーボン推進助成事業等のグリーンエネルギー普及の取組や、新たに、土壌に炭素を貯留し、大気中の二酸化炭素濃度を低減する4パーミル・イニシアチブの取組を推進するとともに、令和6年度からは公共施設への太陽光発電設備の設置を進め、温室効果ガスの排出量を削減します。

取組

- 「甲府市ゼロカーボン戦略」に基づく取組の推進
- 公共施設への太陽光発電設備の整備
- 4パーミル・イニシアチブの推進

実績・成果

- ・電気自動車等普及助成金、グリーンエネルギー機器普及助成金を交付し、グリーンエネルギー等の普及促進を図った。（令和5年度助成金交付実績 188件）
- ・「こうふのeco家電購入応援キャンペーン」の実施により、省エネ効果の高い家電製品の購入を支援することで、家庭での光熱費の負担軽減とCO₂削減を図った。（参加店舗数 84店舗 利用実績 3,792件）
- ・県央ネットやまなしの連携市町とともに、「プラスチック・スマート・キャンペーン&マルシェ」を開催し、各自治体における環境問題への取組の紹介やプラスチック製品との上手な付き合い方について啓発を行った。
- ・民間事業者と連携した県内初のペットボトル回収事業を実施した。
- ・公共施設への太陽光発電設備等の導入に向けた調査を実施した。
- ・市ホームページや「農業委員会だより」で取組を周知した。
- ・農業センターにおいて、無煙炭化器の無料貸出を行った。（貸出件数9件 使用日数27日 実施面積 13,500㎡）
- ・第48回甲府市農林業まつりの会場で、炭化させた剪定枝の展示や「4パーミル・イニシアチブ」の取組について、来場者に周知・PRを行った。
- ・無煙炭化器の購入を希望した農業者の団体に、県補助事業を紹介し支援した。

■「こうふグリーンラボ」の開設

概要

2030年度の温室効果ガス排出量を2013年度比マイナス46%を目指し、先導的かつ重点的に実施する取組の指針や重点施策をまとめた「甲府市ゼロカーボン戦略」に基づき、水素エネルギーの普及啓発や利活用について検討する中で、令和5年度に産学官連携によるコンソーシアムを立ち上げ、水素燃料電池電動アシスト自転車の実証事業を実施するとともに、ゼロカーボンを推進する拠点となる「こうふグリーンラボ」を設置し、市域全体の脱炭素を加速していきます。

取組

- 「こうふグリーンラボ」の設置
- 水素エネルギーの利活用に向けたコンソーシアムの設置
- 水素エネルギーの利活用に向けた実証事業の実施
- 環境教育及び水素エネルギー等の普及啓発

実績・成果

- ・ゼロカーボン推進の戦略拠点となる「こうふグリーンラボ」を11月26日に開設し、啓発パネルやジオラマの展示などによる普及啓発や実証事業を開始した。
- ・産学官コンソーシアムを設置し、地域への水素エネルギーの普及に向け、水素の小口供給に関する研究や検討を進めるとともに、水素・燃料電池電動アシスト自転車の実証事業を11月27日から開始した。
- ・山梨大学、民間事業者等との連携により、環境教育及び水素エネルギーの普及啓発を実施した。（水素・燃料電池教室：5回（185人）、水育（地球の水循環を理解し、私たち一人ひとりが水循環の中で生活していることを認識し、未来に水を引き継ぐことの大切さや必要性を共に考える教室）：2回（51人）、ペットボトル水平リサイクル講座：1回（25名））
- ・Mt.FUJI イノベーションキャンパイベント、学びのSDGs @イオンモール甲府昭和、こうふグリーンラボ水素エネルギー市民向け講座、甲府大好きまつりなど各種イベントにおいて幅広い世代に環境教育を実施した。

4-4 暮らしやすい都市基盤の整備

快適で豊かな暮らしの実現に向け、効率的・効果的な都市基盤の整備を進めます。

■都市計画道路の整備

国や県において整備が進められている幹線道路網との連携を図る中で、「都市計画道路整備プログラム」に基づき、城東三丁目敷島線の伊勢工区は令和 9 年度、住吉四丁目善光寺線の善光寺工区及び高畑町昇仙峡線の池田工区は令和 1 0 年度の整備完了を目指して事業を推進し、甲府圏域における効果的で効率的な道路ネットワークを構築します。

取組
○城東三丁目敷島線（伊勢工区 I 期）の整備 ○住吉四丁目善光寺線（善光寺工区 I 期）の整備
○高畑町昇仙峡線（池田工区 I 期）の整備

実績・成果
・城東三丁目敷島線（伊勢工区 I 期）については、事業用地を 5 件取得した。
・住吉四丁目善光寺線（善光寺工区 I 期）については、7 月に用地測量等に伴う説明会を開催した。また、用地測量及び建物等の補償算定に係る業務を実施した。
・高畑町昇仙峡線（池田工区 I 期）については、8 月に用地測量に伴う説明会を開催した。また、用地測量に係る業務を実施した。

■空き家対策の推進

増加を続けている空き家への対策が全国的な課題となる中、特定空き家等の解消強化などとあわせ、令和 5 年度から空き家バンク制度の対象地域を市域全体に拡充するなど、適切な管理及び利活用の促進に向けた必要な施策を総合的かつ計画的に推進し、空き家を活用した定住、交流人口の増加などの付加価値を創出することによる、地域の活力向上につなげます。

取組
○甲府市空き家バンク制度の対象区域の拡大

実績・成果
・7 月に空き家バンク制度の拡充を図り運用を開始し、10 件の物件登録があり、その内 2 件が成約された。
・空き家所有者に対し空き家バンク制度改正に係るチラシを配付するなど、周知啓発を図った。

■新たな公共交通の導入

将来的に公共交通空白地域の拡大が懸念される中、買い物や通院の際の移動に不安を感じている高齢者に対し、公共交通のセーフティネットとしての移動手段を確保するため、「デマンド型乗合タクシー」の実証運行を令和 5 年度に実施し、その検証結果を令和 6 年度以降の取組へとつなげ、日常生活を安心して営むことのできる公共交通体系を構築します。

取組
○デマンド型乗合タクシーの実証運行

実績・成果
・市内 2 地区（大里、相川地区）においてデマンド型乗合タクシーの実証運行を実施し、利用実績については、利用登録者 6 5 5 人、のべ利用者 2 6 5 人であった。
・検証結果として、「公共交通のセーフティネットの確保」という事業目的に照らす中で、移動に困っている 70 歳以上の高齢者の日常生活の足として、デマンド型乗合タクシーによる一定の有効性が確認できた。
・今回の実施方法では利便性の面などに係わる課題もあり、移動に困っている人が気兼ねなく利用できるようにするためには更なる改善が必要であることから、今回明らかになった課題に対し、実効性のある見直しを行う中で、令和 6 年度の取組につなげることとした。

持続可能なまち

施策の方向性

5-1 S D G s とデジタル化の推進

5-2 災害に強いまちづくり

5-3 シティプロモーションの推進

5-4 やまなし県央連携中枢都市圏の発展

連携・協働・交流による、持続可能なまちづくりに取り組みます。

5-1 S D G s とデジタル化の推進



市民生活や社会基盤の維持のために、S D G s の推進やデジタル技術を活用し、効率的な行政運営を推進します。

■ S D G s の推進

S D G s の理念や考え方について、市域全体の理解が深まるよう、更なる普及啓発や情報発信、パートナー登録制度の更なる充実に努めるとともに、多様な主体との連携を通じて様々な地域課題の解決につながる、経済・社会・環境の3つの側面からの新たな取組を展開し、持続可能な未来都市の実現に取り組みます。

取組 ○ S D G s 達成に向けた普及啓発の推進 ○ S D G s 推進パートナー登録制度の充実・強化
○ 自治体 S D G s モデル事業の構築

実績・成果

・市内3大学や民間企業と連携し、学生が S D G s 推進パートナーである団体の取組に対し取材を行い、レポート集として公表するとともに、学生のアイデアにより、S D G s 普及啓発ツール（カードゲーム等）を構築し、約150人の園児・児童を対象に出張授業を行うなど、普及啓発の推進を図った。
・新たに53団体がパートナーとして登録を行い裾野を拡大する中、登録団体を対象とする交流会を実施し、パートナー同士の連携を促進するなど、登録制度を充実させた。
・「こうふグリーンラボ」を拠点とし、水素や太陽光などの利活用を促進していく内容とした「自治体 S D G s モデル事業」については、産学官の連携を図りながら、「次世代エネルギー地産地消都市」を目指すものとした。

■ 自治体 D X の推進

デジタル技術を活用した行政手続きの更なる簡素・効率化を進めるとともに、D X 人材の育成に努めるなど、デジタル化による便利で効率的な行政サービスを展開するため、自治体 D X を推進します。

取組 ○ 行政手続きのオンライン化の推進 ○ 対話型 A I の活用に係る調査研究
○ D X 人材の確保・育成 ○ A I - O C R / R P A 等の活用による事務効率化

・転入・転出などの行政手続きについて、マイナポータルを活用したオンライン申請を開始し、市民の利便性向上を図った。
・対話型生成AIについては、他都市の活用方法などについて調査研究を行うとともに、活用により得られる効果や課題等の検証を行うための試験運用や先進都市への視察を行った結果、有効性が確認できたため令和6年度に導入することとし、利用上のルールなどを示したガイドラインの作成に着手した。
・DX人材の育成に向け職員に対し、自治体DX関連の研修を8回開催し、専門的知識の習得やデジタルリテラシー向上に取り組むとともに、「DX人材育成基本方針（素案）」を作成した。
・8課、13業務に A I - O C R / R P A を導入し、864.0時間の作業時間の縮減につながった。

5-2 災害に強いまちづくり



近年、自然災害が激甚化・頻発化している中、自治会等との連携強化を図り、災害に強いまちづくりを進めます。

施策	概要	■地域防災力の強化 地域防災を担う防災リーダーの育成やフォローアップ研修に加え、水害避難の地区研修会の充実を図るため、効果的な検証が可能な指定避難所で研修会を開催し、令和6年度以降、検証結果を基に指定避難所ごとに実効性の高い新たな研修会を単位自治会で実施します。また、令和5年度には、情報を取得しやすく利便性を高めるため防災アプリのリニューアルを行うとともに、外国人の防災意識の醸成にも取り組むなど、市民一人ひとりの防災に関するスキルアップや連携強化を図り、災害に強いまちづくりを推進します。
	取組	○甲府市防災リーダーの育成・強化 ○水害避難の地区研修会の強化 ○「甲府市防災アプリ」のリニューアル
	実績・成果	・甲府市防災リーダーとして、A講習（講義）とB講習（実技）をともに受講した64名を、新たに登録した。 ・防災リーダーのフォローアップ研修会を実施し、避難所運営訓練に75名、資機材訓練に47名、講演会に245名が参加した。 ・防災リーダーの新たな登録や、フォローアップにより、災害応急活動の中心的な役割を担う地域住民の育成と強化が図られた。 ・令和6年度以降に行う、新たな水害避難の研修内容を検討するため、玉諸地区の指定避難所である玉諸小学校（2月17日）、山梨県自治会館（2月24日）にて研修会を実施し、研修結果（アンケート）の集約・分析を行った。 ・「甲府市防災アプリ」については、リニュアルしたアプリを、9月29日より運用を開始した。 ・アプリのリニューアル後に、各種研修会や講演会などを通じた普及啓発により、3,741件ダウンロード数が増加した。

5-3 シティプロモーションの推進



戦略的なプロモーションにより、本市の多彩な魅力を輝かせた甲府のブランド力を高めます。

施策	概要	■シティプロモーションの推進 市政情報等の魅力を市内外の方々に知ってもらうため、本市の春夏秋冬を捉えた甲府歳時記プロモーションやデジタル漫画を活用したローカルプロモーション、SNSを中心としたWebプロモーションに加えて、甲府大使等による魅力発信、民間企業等とのコラボレーションによるコミュニティプロモーションなど、市民向け・国内等に向けた「3つのターゲット別プロモーション」を実施し、甲府ファンを創出します。
	取組	○「こうふFANクリエイション」プロジェクトの構築
	実績・成果	・甲府歳時記プロモーションのイメージ・コンセプトの検討を行い、次年度の実施に向けて準備を進めた。（4シーズンのポスターとWebコラムの連動等） ・デジタル漫画発刊に向け、執筆者等の検討を行った。 ・SNSを活用した魅力発信グループの構築について相談・検討を行った。 ・LINEの予約機能・メニュー機能の拡充を行い、利用者の利便性向上に努めるとともに、LINEデジタルスタンプの作成・活用について研究を進め、令和6年度以降に配信が開始できるよう具体的な検討を行った。

5-4 やまなし県央連携中枢都市圏の発展

やまなし県央連携中枢都市圏を形成する自治体と共に、相互の強みを活かした事業を展開し、課題解決に取り組めます。

施策	■「やまなし県央連携中枢都市圏ビジョン」の推進	
	概要	甲府市・韮崎市・南アルプス市・甲斐市・笛吹市・北杜市・山梨市・甲州市・中央市・昭和町の9市1町で構成する「やまなし県央連携中枢都市圏」において、「やまなし県央連携中枢都市圏ビジョン」に基づき、令和5年度より実施する各分野の取組を推進し、圏域の発展と持続可能なまちづくりを進めます。
	取組	○圏域自治体との連携事業の推進
	実績・成果	・圏域自治体と「やまなし県央連携中枢都市圏ビジョン」の推進体制を構築し、圏域全体の発展や住民福祉の向上に資する様々な分野における19事業を推進した。 ・圏域の共通課題を把握する中で、新たに「自殺対策・ひきこもり支援」、「多文化の共生の推進」及び「結婚への支援」の取組をビジョンに位置付け、推進体制を構築した。 ・圏域の取組が知れわたり、親しまれるよう、圏域の愛称を「県央ネットやまなし」に決定し、イベントやキャンペーン等の連携事業で積極的に活用して圏域の認知度向上と連携事業の浸透に努めた。